平成３０年産自給飼料の生育と分析結果より

今回は、Ｈ３０年に収穫された自給飼料の作況調査、収量調査結果や粗飼料分析値などから、傾向や使用法について考えてみたいと思います。

１　生育及び収穫作業の経過

●１番草

６月上旬の高温により、１番草の生育は順調に経過し、出穂始めは平年並でした。しかし、６月下旬以降の雨続きにより収穫終は平年より１４日と大幅に遅れました。

●２番草

１番草収穫の遅れと８月以降の天候不順により、草丈の伸びは平年より遅れ、収穫期は１０日遅れました。

●飼料用とうもろこし（コーン）

６月中旬からの低温により、草丈は平年よりも短く、以後、生育は緩慢となりました。８月の天候不順は、登熟や収穫作業にも影響し、黄熟期は平年の１０日遅れ、収穫始めは４日遅れとなりました。９月３０日、１０月７日の台風の接近により収穫作業を早めた農家も見られましたが、登熟待ちで収穫作業を遅らせた農家もおられ収穫期間が伸びました。

２　収量（表１）

●１番草の収量は、平年の１０１％となりましたが乾物収量は、刈遅れにより１１５％となりました。

●２番草の収量は、平年の９３％、乾物収量は９４％と少なくなりました。

●１番草と２番草の合計収量は９８％となりました。

サイレージ等の確保量は収穫時期によりばらつきが大きな年となりました。

●飼料用とうもろこしの生収量は、平年の８５％とかなり低くなりました。

表1　H30年中西部支所管内の収量調査結果
（市町村、JA、普及センター調査による）

	H30	平年	平年比
1番草	2,236	2,219	101%
2番草	1,178	1,266	93%
合計	3,414	3,485	98%

	H30	平年	平年比
コーン	5,162	6,067	85%
TDN収量	876	1,016	86%

※収量はkg/10a

３　栄養価（表２）

１２月時点までの釧路管内の粗飼料分析値のデータから、今年の傾向を見てみましょう。

●１番草

収穫期は平年の８日遅れでしたが、ＴＤＮ、ＣＰは、Ｈ２９年と比較してほぼ同じでした。

一方、ＮＤＦは昨年より３ポイント高くなりました。既に給与している農場からは、「発酵品質は悪くないが、収穫時期が遅れたものは、食い込みが悪く、乳量が思ったほど出ない」と言う声も聞かれています。

●２番草

栄養価は昨年と同じ傾向でした。

●飼料用とうもろこし（コーン）

ＴＤＮ、ＮＤＦはそれぞれＨ２９年対比１００％と前年並でしたが、デンプン含量は２ポイント低い結果となりました。

台風接近のために収穫が早まったほ場や鹿食害にあったほ場は、デンプンが低く、登熟してから収穫したほ場では平年以上のデンプンが期待できそうです。

４　給与について

●食い込み量の確認

１番草、２番草共に刈り遅れにより食い込みが悪い場合、糖蜜資材の活用や、ビートパルプなど消化性の高い飼料との併給や代給は、有効な方法です。また、刈り遅れたサイレージは、水分が低くカビや変敗等に注意し、品質や分析値、牛が十分に食べているかなどを確認しましょう。

コーンは状況によってデンプン率に差があるので、給与の際は、分析結果と牛の反応を確認しましょう。

状況に応じて栄養成分の不足を補うなど、臨機応変に対応しましょう。

（平成３０年１２月作成）

表2　平成30年度粗飼料の分析値平均
（H30. 12月現在　ホクレン受付分）

		H30産	H29産	H30/H29
1番草	TDN%	60	61	98%
	CP%	11	11	99%
	NDF%	67	64	105%
2番草	TDN%	60	61	99%
	CP%	14	14	104%
	NDF%	61	61	100%

		H30産	H29産	H30/H29
コーン	TDN%	70	70	100%
	澱粉%	22	24	92%
	NDF%	47	47	100%

釧路農業改良普及センター　釧路中西部支所